

平成22年度認知症地域支援体制構築等推進事業の取り組み

(紀宝町)

はじめに

紀宝町では、地域包括支援センターの総合相談窓口のPRも兼ねて認知症サポーター養成講座を地区に出向いて展開してきましたが、総合相談やケアマネのアンケートでも困難ケースの多くは認知症であることから、地域での本格的な対策の必要性を感じモデル事業を受けることになりました。

隣町の御浜町の協力を始め、関係機関の協力を得ながら、「温かい人と人のふれあいを中心とした認知症予防と認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指した具体的な事業に取り組み、認知症の人ご本人の思いを忘れないように常に振り返り、進めるように心がけてきました。

事業の実施方針で掲げた認知症に関する相談と個別支援については、見守り・支援サポーター養成講座を修了された方が、ボランティアとして個別の支援に役立ててください。認知症に対する理解とともに支え合い精神やつながりの大切さを大いに発揮され、認知症の本人への安心して生活の橋渡しとして活動してくれていることは大きな成果となっています。まだまだ事業は進行途中ですが、これまでの取り組みの経過を報告させていただきます。

<認知症モデル事業の取り組みの経過>

I 認知症ケアの質の向上

① センター方式を中心とした事業所職員への研修

◇ 基礎研修

日時：5月19日(水)・6月16日(水) 10:00~16:00

場所：紀宝町生涯学習センター まなびの郷 研修室

講師：社会福祉法人 喜成会 長森秀尊氏 他2名

修了者：23名

内容：センター方式の基礎を2日間で研修

◇ 活かし方セミナー

日時：1月11日(火) 9:30~15:30

場所：紀宝町生涯学習センター まなびの郷 研修室

講師：認知症介護研究所・研修東京センター 熊倉祐子氏

修了者：20名

内容：基礎講座修了者対象で、センター方式を使っていく上での疑問点や不明点を解消しながら、日々の支援に活かしていくためのポイントやヒントを見つけるためのセミナー

◇ フォローアップ研修

日時：2月9日(水) 9:30~15:30

場所：紀宝町生涯学習センター まなびの郷 研修室

講師：認知症介護研究所・研修東京センター熊倉祐子氏・小森由美子氏

修了者：17名

内容：基礎講座修了者対象で、センター方式で取り組んだ自身のケースをもとに認知症ケアやケアマネジメントをスキルアップするための実践を学ぶ研修

◇ 『パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング』研修

日時：3月20日(日) 13:30~15:30 開催予定

◇ 『もの忘れ外来とケアマネ、医療と福祉の連携について』研修(御浜町共催)

日時：10月15日(金) 13:30~15:30

場所：御浜町役場 くろしおホール

講師：三重大学大学院医学系研究科(もの忘れ外来担当医)

認知症医療学講座 准教授 佐藤正之氏

参加者：40名

内容：今年度より紀南病院に開設された「もの忘れ外来」の周知を図り、受診前、後の医療と福祉の連携をどのように図るか等、研修を交えながら意見交換を行った。

II 認知症に対する正しい知識の普及について

① 広報による啓発 (別添資料)

◇ 広報に認知症についての特集を組み、住民への周知

◇ 「広報きほう12月号」が広報紙部門(町部)で特選(第1位)に選ばれる!
「認知症とは何か」という大前提から始まり、認知症本人の気持ち、介護者の思い、医師のアドバイス、町の取り組み、そして心のこもったメッセージと、さまざまな観点から、理解しやすい順序で展開。タイムリーな話題であり、町民みんなと一緒に考え、行動しようという意図が感じられたとのコメント。

② 認知症サポーター養成講座

累計 511名

◇ キッズサポーター養成講座 12月3日 相野谷中学校にて実施

◇ 地域住民：いきいきサロン・介護者・ボランティア等に実施

◇ 消防署員対象に、今年度中に実施予定

③ 認知症講演会『支える側が支えられるとき~認知症の母が教えてくれたこと~』

日時：11月10日(水) 13:00~15:00

場所：紀宝町福祉センター

講師：藤川幸之助氏(詩人・児童文学作家)

参加者：71名

内容：認知症の母に寄り添いながら、命や認知症を題材にした講演。認知症サポーター、民生委員、介護サービス事業所等も含め、広く町民を対象に行った。

④ 成年後見人制度講演会

日時：12月1日(水) 14:00～16:30

場所：紀宝町福祉センター

講師：熊田均弁護士・田辺寿社会福祉士(伊賀市社会福祉協議会)

参加者：80名

内容：成年後見人制度の知識と理解を得て、伊賀市の取り組みなど現状を知る

Ⅲ 認知症の人と介護者を支える地域づくり

① つどい・交流会 (認知症の人と家族の会三重支部との共催)

6月・9月・12月・3月の年4回

場所：紀宝町生涯学習センター まなびの郷

6月には、つどい・交流会の啓発も兼ね、民生委員や介護サービス事業所にも参加を呼びかけた。

② 介護者サロン (上記つどい・交流会以外の月に実施)

少人数ではありますが定着しつつあり、介護者同士の顔の見える関係を大切にし、情報交換やリフレッシュの場として活用していただく。

③ 介護者リフレッシュ事業「熊野川体感・川舟下り」とミニ学習会

日時：5月18日(火) 10:30～14:30

場所：紀宝町浅里 飛雪の滝

講師：認知症の人と家族の会三重県支部代表 泉美幸氏

参加者：介護者8名

内容：川舟下りでリフレッシュしていただき、介護経験の話を聞く。

サロン・つどい交流会参加人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
サロン	2			4	2		3	3		2	3		19
つどい			21			5			6				

④ ボランティア活動の支援

- ◇ 平成21年度に生活・介護支援サポーター養成講座を行い、修了者の中から希望者を募り、「てまりの会」を結成した。結成当初の23名から現在は43名。
- ◇ ボランティア活動として、認知症の方や介護者への直接支援と認知症予防教室のサポーターとしての支援に分けて希望者を募り、全面的な支援を行った。
- ◇ 23年2月までに、4名の方の個別支援を行った。1名は継続中。支援の内容は、散歩・見守り・一緒に調理・話し相手等多様に対応した。
- ◇ スキルアップ研修「傾聴～相手の気持ちに寄り添うために～」

日時：3月10日（木）

てまりの会他、ボランティア、民生委員を対象に予定。

③ 見守りサポーター養成講座

町内回覧により募集し、20名が受講 →全員てまりの会に登録いただく。

見守り・支援サポーター養成講座カリキュラム

	日 程	時 間	内 容
1 回	7月1日	13:00～ 16:30	町高齢者対策の現状について 認知症サポーター養成講座 実技：～らくらく介助のコツ～
2 回	7月22日	13:00～ 16:30	回想法について学ぶ 困難な方へのアプローチのコツ 認知症のツボがわかる～最新医療&予防法
3 回	8月19日	13:00～ 16:30	プロから学ぶ介護予防&認知症予防 Ⅰ なっ得！お口の健康 口腔ケア Ⅱ 講義と実技「リハビリと運動習慣」
4 回	9月14日	9:30～ 12:10	知ってください 家族会の思い 体験！物忘れ相談プログラム 早期発見の重要性と予防プログラムの紹介
5 回	9月30日	13:00～ 16:30	介護予防園芸のすすめ～デッシュガーデン 地域でサポートしていくために 修了式（修了証の交付）

⑥ 認知症予防教室

◇5月～10月（7月末～8月は猛暑のため夏休み）毎週1回

◇認知症に強い脳を作るウォーキングのすすめ・料理のすすめのテキストを使用して2グループに分かれてワイワイ楽しく実施

参加者（平均年齢79歳） 17名 延べ108人

てまりの会サポーター 16名 延べ102人

◇コース終了後は、サポーターの運営で週1回、自由な雰囲気で行うウォーキング、料理グループは新たなメンバーが加わり月1回の自主活動が継続。ウォーキングは認知症の本人や高齢者の方が歩いて参加できる社会参加の場として定着し始めている。サポーターさんの持ち寄りでお茶会も自主的に取り入れられさらににぎやかさが加わっている。

⑦ 物忘れ相談プログラム（タッチパネル式PC）を用いたスクリーニング

1) 健康まつりにて、希望者に実施

2) 12月の地区健康相談に出向いて実施

◇地区健康相談では、広報紙、防災無線で周知したため、ほとんどの参加者が

受けていただき、スクリーニング結果は50%の高率で認知症の疑いを認め、中にはアリセプトを服用している方もおられ、介護保険認定者だけでなく、広く地域に目を向けていく必要があることがわかった。

◇今回は、モデル的なスクリーニングのため、その場での指導や予防教室への勧誘のみとしたが、必要な方には早期受診への支援、予防プログラムへの参加など体制作りが必要と考える。

⑧ 地域資源マップの作成について

◇認知症のご本人や、介護者の方が、相談にこられたときに活用できる地域資源マップとして作成を検討中。

◇地域資源マップ検討会

平成1月31日(月) 18時~20時

地域で高齢者を見守り、支える方たちに参加していただき、まずは顔の見える関係づくりを行い、今ある地域資源とあったらいいなと思う地域資源について、5グループに分かれ検討していただいた。

参加者57名 ・民生委員 19名
・介護サービス事業所 19名(13事業所)
・ボランティア団体 12名(3グループ)
・社会福祉協議会 1名
・行政 6名

⑨ 徘徊SOSネットワークの構築

◇年4回開催の町地域包括ケア会議と広域で開催される紀南地域ケアネットワーク会議(警察署、消防署、郵便事業会社、郵便局会社、等)と連動しながら、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、介護保険サービス事業所、町内開業医等の参加を呼びかけ、町内におけるネットワークの構築について話し合い、本格的な取り組みができるよう検討していく。

◇徘徊SOSネットワーク会議

日時:3月17日開催予定

IV その他

① 定期的なコア会議の開催

福祉課長、高齢者担当、包括3専門職をコアメンバーに、中長期的な見通しをもって、効果的な事業内容の検討を行ってきた。

5月27日(木)	モデル事業の共通理解、事業の検討
10月4日(月)	事業の進捗状況、課題の把握
1月7日(金)	事業の進捗状況、課題の把握

② 先進地視察

◇静岡県富士宮市(御浜町と合同)

日時：7月8日・9日

内容：1日目は、富士宮市役所にて、モデル事業の取り組みについて
2日目は、若年性認知症の方と家族に会い、本人の思いや家族の思い等を聞かせていただく。

◇和歌山県白浜町

日時：2月7日

内容：モデル事業の取り組みについて
認知症の方を支援するボランティア(やすらぎ支援員)について
センター方式を活用した事例検討会について

◇福岡県大牟田市

日時：3月6日～8日予定

③ 地域合同セミナーへの参加

7月29日～30日

10月18日～19日

1月27日～28日

④ 職員研修

◇キャラバンメイトスキルアップ研修(東紀州合同)

日時：11月14日(日)9:20～16:00

場所：熊野市保健福祉センター

講師：福井県敦賀温泉病院 玉井顕氏

参加者：8名

《これからの取り組みについて》

- センター方式の研修を積み重ねてきましたので、各事業所で活かしていくことができるよう、今年度は実施できなかった事例検討会等を事業所に働きかけていきたいと考えています。
- 認知症の啓発については、認知症サポーター養成講座を中心に小地区単位で開催し、本来の近所つきあいや助け合いの再構築と、自主防災組織との連携もあわせて地域での見守り体制の構築を図りたいと考えています
- 民生委員とのネットワークについては、1人暮らし高齢者及び75歳以上高齢者夫婦世帯台帳をもとに地区懇談会における情報交換と地図への書き込み作業を通じて、強力なネットワークが形成されてきました。毎月の定例会における最新情報の共有以外にも、電話や来所による相談・通報など連携をいただいています。民生委員からは地

図に落とすことで、要援護者の家が浮かび上がり、訪問しやすくなった、昨年の熱中症多発時期にも、的確に訪問して声かけすることができた、民生委員を退いても高齢者のために協力していきたい、との心強い声をいただいております。今年度は災害時要援護者登録申請に加えて、認知症の方の見守りについても協力をいただいております。講演会や研修会にも熱心に参加され、地域の大きな力となっていただいております。昨年末に半数近くの民生委員の交代がありました。引き続き強力な民生委員パワーとの連携を保っていきます。

最後に

包括職員も一緒に研修を受けたことで、事業所ときめ細かな連携ができるようになり、認知症の本人本位の生活に応じたケアに生かせることが実感できました。また、介護保険だけでなく、地域ならではの生活をどのように送っておられ、何を楽しみにされているか本人や家族の思いを十分に聞いていくことで、地域の中での見守りや、支援の輪を発見したり、てまりの会などインフォーマル支援を組み入れたり、職員の意識向上にもつながりました。

また、コーディネーターの全面的な推進力に支えられ事業を展開してきました。人口1万強の小さな町で、人材不足もカバーしながら事業を進めていくためには、住民の力や地域の力にも目を向けて、認知症の本人と介護者の皆さんとのかかわりのプロセスを大切にしながら、モデル事業で学んだことの成果と課題を整理して、更なる取り組みに進めていきたいと思っております